

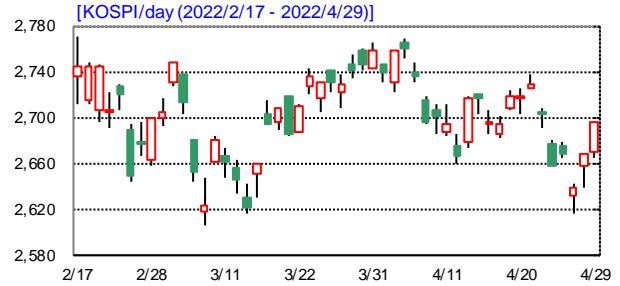


【韓国】 総合指数は週間で0.4%安と反落、今週は節目の2700ポイント目指すか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%安と反落。米FRBの積極的な利上げ姿勢と中国景気の減速を懸念する売りが重荷となった。週明け25日は前週末の米株相場的大幅下落が嫌気されて続落。26日は米株高に追隨して3営業日ぶりに反発した。同日に発表された韓国の2022年1-3月期のGDPは前期比の伸び率が鈍化した。市場予想は上回った。27日は反落し、終値は3月15日以来ほぼ1カ月半ぶりの安値。良好な企業決算を受けて28日は反発。29日も連騰したが、週明けに割り込んだ節目の2700ポイントは回復できなかった。今週は2700ポイントを目指すか。国内のコロナ新規感染者数が減少しつつあり、経済活動の活発化を見込む買いが入りそうだ。韓国政府は29日、屋外でのマスク着用義務を今週に解除すると発表した。

▼指数チャート

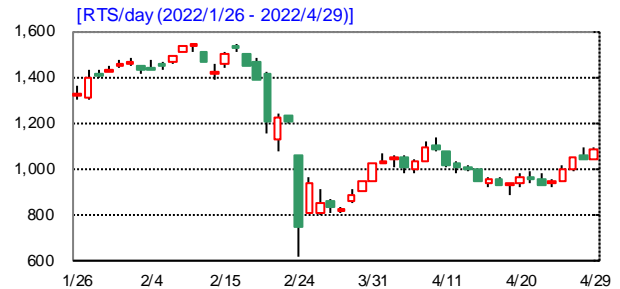


【ロシア】 RTS 指数は16.5%高と3週ぶりに急反発、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は16.5%高と3週ぶりに急反発。エネルギー、資源、金融株が軒並み大幅高となったことに加え、ルーブル高も支援となった。週明け25日はルーブル高を追い風にRTS指数は前週末比1.4%高と反発し、26日はロシアとウクライナの停戦協議への期待や原油高を追い風に6.2%高と大幅続伸。27日も金融株が買われ、4.9%高と3日続伸した。28日は小幅に反落したものの、29日はロシア中銀が政策金利を17%から14%に引き下げたことが好感され3.8%高と反発した。ルーブル建てのMOEX指数は週間で9.5%高。ルーブル高を背景に米ドル建てのRTS指数は16.5%上昇した。個別銘柄は、ルクオイル、ガスピロム、ノバテック、ズベルバンク・オブ・ロシアなどが2桁高となった。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート

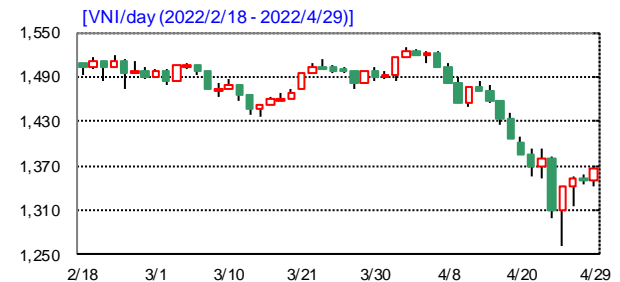


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.9%安と4週続落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.9%安と4週続落。先安観から急落したが、その後は買い戻され下落幅を縮小した。前週に5.4%安と3週続落したVN指数は週明け25日に前週末比5.0%安と急落。先安観を背景に主力大型株に売りが強まった。26日も売りが続き、指数は一時、9カ月ぶりの安値を付けたが、大型株中心に押し目買いが強まると2.3%高で終了。27日はほぼ終日マイナス圏で推移したが、終盤に買われ0.9%高と続伸した。28日は0.2%安と小幅に反落したが、29日は1.2%高と反発し、週間では0.9%安と下落幅を縮小して終了した。個別では不動産のビンググループが3.0%高となった一方、SSI証券が6.9%、食品加工のマサン・グループが5.9%、ベトインバンクとペトロベトナム・ガスが5.6%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



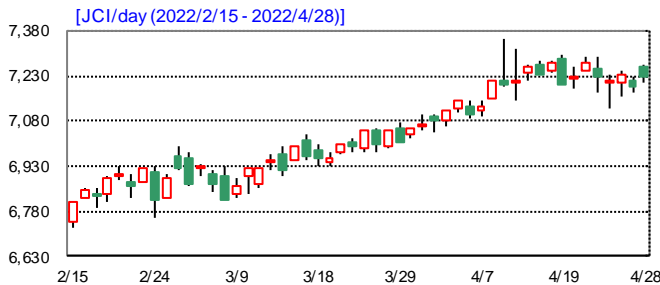


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.05%高、今週は断食明け大祭のため 1 週間を通じて休場

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.05%高とほぼ横ばい。4 月月間では 2.2%高。先週は 29 日に始まった断食明け大祭の連休を控えた様子見で狭いレンジでの取引が続いた。週初の 25 日は、前週末に政府がパーム油の国内供給の安定を図り、28 日から一時的に輸出を禁止すると発表した影響で関連銘柄が売られ、指数は小幅に続落。26 日は 3 日ぶりに反発したが、27 日は前日の NY ダウが大幅下落した流れを引き継ぎ、終値で 7200 ポイントを割り込んだ。ただ、28 日はパーム油の禁輸措置は短期的との見方が広がった効果で反発している。今週は断食明け大祭のため 1 週間を通じて休場。取引再開は 9 日となる。

▼指数チャート

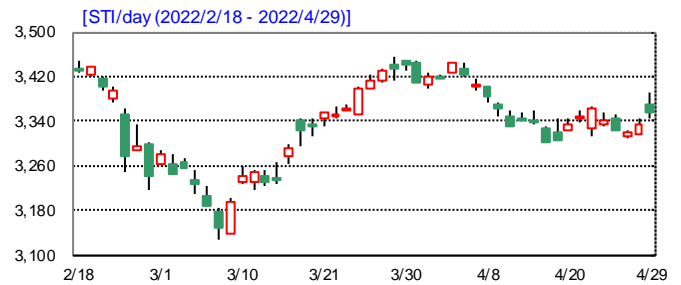


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.1%安、3 月の CPI 上昇率は 10 年ぶりの高水準

スレーツタイムズ指数は週間で 0.1%安と反落。4 月月間では 1.5%安。先週は週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 25 日は、3 月の CPI 上昇率が前年同月比 5.4%と約 10 年ぶりの高い伸びとなり、インフレ懸念が高まった影響で、指数は 5 営業日ぶりに反落。27 日まで 3 日続落したが、28 日に反発すると、29 日は 1-3 月期の決算内容が市場予想を上回った DBS グループとオーバーシー・チャイニーズ銀行が買われた効果で、続伸して引けた。今週は 4 日に 4 月の製造業 PMI、5 日に 3 月の小売売上高が発表される予定。2 日はメーデーの振替休日、3 日はハリヤブアサ (断食明け祭) のため休場となる。

▼指数チャート

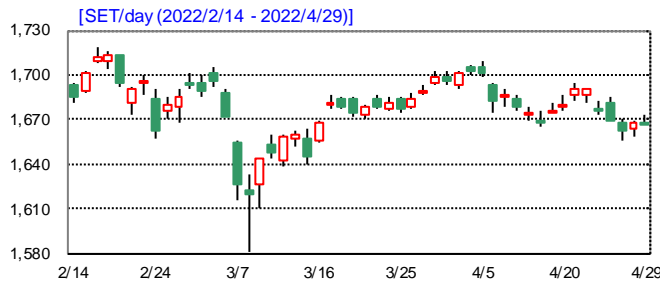


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、5 年ぶりの米ドル高パーツ安を嫌気

SET 指数は週間で 1.4%安と反落。4 月月間では 1.6%安。先週は買い材料に乏しく軟調だった。週初の 25 日は、前週末の NY ダウが利上げペースの加速による景気減速懸念の広がりで大幅続落した流れに連動して、5 営業日ぶりに反落。26 日は米ドルに対しパーツが 5 年ぶりの安値水準となった影響で続落すると、27 日も下げ止まらず下値を広げた。ただ、28 日は 3 月の鉱工業生産が前年同月比 0.1%減と市場予想から下振れたものの影響は軽微で 4 日ぶりに反発。29 日は前日からほぼ横ばいで引けた。今週は 5 日に 4 月の CPI が発表される予定。2 日は国民労働日の振替休日、4 日は戴冠式の日の祝日で休場となる。

▼指数チャート

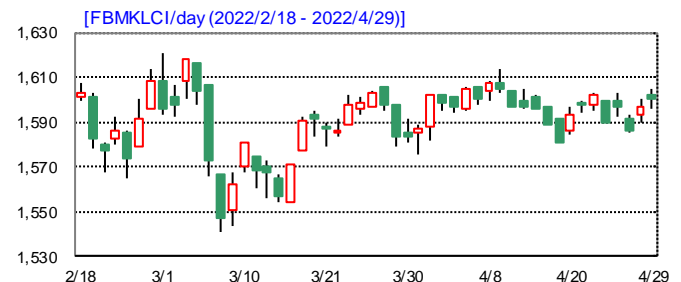


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、インドネシアのパーム油禁輸で関連銘柄に買い

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安と反落。4 月月間では 0.8%高。先週は週末の上昇が下落幅を縮めた。週初の 25 日は、インドネシアのパーム油禁輸措置を受けてマレーシア先物価格が上昇し、関連銘柄が買われたものの補えず、指数は 4 営業日ぶりに反落。連休を控えた様子見が続く中、28 日まで一進一退の値動きを繰り返したが、29 日は前日の NY ダウが一部の IT 大手の業績が予想を上回った効果で大幅上昇した流れを引き継ぎ、終値で 1600 ポイント台を回復して引けた。今週は国内の経済イベントが少なく、3-4 日開催の米 FOMC が焦点。2 日はメーデー、3-4 日はハリヤブアサのため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。